

学校法人千葉経済学園  
千葉経済大学短期大学部  
機関別評価結果

平成 25 年 3 月 14 日  
一般財団法人短期大学基準協会

## 千葉経済大学短期大学部の概要

設置者 学校法人 千葉経済学園  
理事長 佐久間 勝彦  
学 長 佐久間 勝彦  
A L O 市岡 義章  
開設年月日 昭和 43 年 4 月 1 日  
所在地 千葉県千葉市稲毛区轟町 4-3-30

### 設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
ビジネスライフ学科		120
こども学科		200
	合計	320

### 専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

### 通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

## 機関別評価結果

千葉経済大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 25 年 3 月 14 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 23 年 7 月 14 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、学園創設時の「片手に論語、片手に算盤」という建学の精神の下、短期大学発足に際して「良識と創意」という新しい校是を定め、現在に至っている。建学の精神は、学園の教育理念として、学則第一条に明記するほか、大学案内、学生便覧などの出版物やウェブサイトにも記載することで、学内外への周知が図られている。ビジネスライフ学科とこども学科の教育目的・目標も、この教育理念を踏まえて掲げられ、それは「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」の「三つの方針」として学内外に公表され、点検されている。学習成果についても、学生便覧に「学位授与の方針」として記載がある。教育の質の保証については、卒業生アンケートや授業評価、満足度調査などの実施によって点検され、それによる授業方法の改善も図られている。自己点検・評価活動については、平成 3 年に制定された規程に基づいて行われ、その報告書が平成 17 年度、平成 21 年度に公表されている。

教育課程は、ビジネスライフ学科、こども学科のいずれの学科においても、建学の精神に基づく校是を踏まえて体系的に編成されている。科目の配置もバランスがとれており、「三つの方針」も明確に設定され、大学案内、学生便覧、学生募集要項などに記載されている。学習成果の査定にかかる授業の「概要と到達目標」「評価の方法・基準」は、シラバスに明記され学生への理解が促されている。学習成果の獲得のためには、学科会議後に行われる FD 会議などによって学科全体で授業改善と学生支援について検討していく体制が整っている。学生による授業評価、学生生活全般についての満足度調査、教員同士の相互授業参観や授業事例研究会等もそれに反映されている。クラブ活動、自主学習など学生の自主的な活動を支援する教職員の体制や、施設設備なども充実しており、校是にのっとった豊かな学生生活が送れるような配慮がなされている。キャリア支援については、資格取得講座、就職試験対策講座の開講や、高度資格取得者の賞揚などのほか、基礎学力不足の学生のための相談活動等も行われている。また、卒業生や就職先からの情報を集めるなどして、その指摘を生かすようにも

努めている。

人的資源としての教員組織は、「教育課程編成・実施の方針」に沿って選考された専任教員により編成され、その数は、短期大学設置基準を上回っている。教員の研究についての規程も整備され、科学研究費補助金等、外部資金も獲得している。授業事例研究会、相互授業参観という形での FD 活動も行われている。職員の研修は日本私立短期大学協会の研修等を利用して行われている。また、全事務職員にパソコンが貸与され、事務合理化システム及び教務システム等の利用による学生支援体制は整備されている。物的資源としての校地・校舎面積はいずれも短期大学設置基準に規定される面積を上回っており、校舎の学習環境も「教育課程編成・実施の方針」に沿って整備、活用されている。火災・地震・防犯対策として定期的に点検、訓練も行われている。技術的資源をはじめとするその他の教育資源のうち情報システムについては、3～4年のサイクルで見直し更新が行われている。高速化された学内 LAN に接続して学生が必要な学習を行うことができるように整備され、セキュリティ対策もとられている。財的資源については、日本私立学校振興・共済事業団の「定量的な経営判断の指標に基づく経営状態の区分」では正常の状態である。

理事長・学長は適切に選任され、学園の建学の精神及び教育理念・目的に基づいて、短期大学部の運営や学校法人の運営全般にわたってリーダーシップを発揮している。理事会の管理運営体制も確立しており、私立学校法に従って財務情報をウェブサイトで公開し、また、法令に従って種々の教育情報を公表している。教授会は、学則や教授会規程にのっとり適切に運営されている。監事は、学校法人の業務及び財産の状況について適宜監査し、会計年度ごとに監査報告を行っている。評議員会は理事会の諮問機関として適切に運営されている。毎年度の事業計画と予算に関しては、「中期財務計画（予測）」に基づいて決定され、適正な予算執行が行われている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

#### 基準 I 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 大学総合図書館が平成 19 年から毎年開催している「論語」についての開放講座は、内外への啓発の試みとなっている。

## 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

### [テーマ A 教育課程]

- こども学科における教育・保育実習記録集『ひろはら』（「特色ある大学教育支援プログラム」＝特色GP採択）が、実習の事前事後指導に有効に活用されている。

### [テーマ B 学生支援]

- 平成 21 年度に、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」に「模擬試験・就職対策講座などを活用したきめ細やかな支援システム」が採択されており、学生の就職支援・指導の充実に努めている。

## 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

### [テーマ B 学長のリーダーシップ]

- 学長は、理事長を兼任し公職を歴任する中で、学内の主要な会議にほとんど出席している。学長はその際、各責任者と会議前にしっかりと打ち合わせをし、方向を確認するなど大学運営の意思決定機能を果たしている。

## (2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

## 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

### [テーマ A 建学の精神]

- 建学の精神「片手に論語、片手に算盤」を印刷物やウェブサイトなどに記載する場合、校是「良識と創意」との関係性を明確にし、より深い理解につなげる必要がある。

### [テーマ B 教育の効果]

- 教育の質の保証に関する成果については、PDCA サイクルによるシステムが緒に就いたばかりなので、今後の全教員による定着に向けた取り組みが望まれる。

## 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

### [テーマ A 人的資源]

- 規程の整備も含め、組織的な SD 活動の充実が望まれる。

## (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

#### 各基準の評価

##### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

建学の精神は「片手に論語、片手に算盤」で、徳育と実学を重んじる教育理念の下に、学生便覧、大学案内などに明確に示されている。また、入学式等の機会には理事長・学長によって教育理念が語られており、教室に掲示された「論語カレンダー」を通して学生や教職員が共有できるよう配慮されている。また、大学総合図書館が平成19年から毎年開催している「論語」についての開放講座は、内外への啓発活動の試みとなっている。

さらに建学の精神にのっとり定められた「良識と創意」という校是と、それに基づく各学科の専門性を生かした教育目的は、学則第一条に明記され、学生便覧、大学案内、学生募集要項、ウェブサイトなどにも記載があり、キャンパスの中央の石碑にも刻まれている。これらのことで、学生、教職員へ建学の精神と校是の周知徹底が図られている。

ビジネスライフ学科とこども学科の教育目的・目標は、この教育理念を踏まえて掲げられ、それは「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」として学内外に公表されている。両学科の教育課程はこの方針に基づいて編成され、学習成果は授業要項（シラバス）で明示された方法で測定されている。教育の質を確保し、学生の満足度を高めるための努力も、機関・教育課程・科目の3レベルでPDCAサイクルを用いた査定を行い、また、学科ごとにFD会議を設けて教育の充実に努めるなど、全学的に実施されている。ただし、PDCAサイクルによる取り組みは緒に就いたばかりで、成果の確認までには至っていないのが現状である。

自己点検・評価活動は、平成3年に制定された規程に基づいて短期大学部専門部会を設置し、全教職員の意識の高揚を図って平素より行っている。また、平成17年度に短期大学基準協会の認証評価を受けた後、さらに平成21年度に山梨学院短期大学、名古屋経済大学短期大学部の学長による外部評価が実施されている。

##### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

教育課程は、ビジネスライフ学科、こども学科のいずれの学科においても、建学の精神に基づく校是「良識と創意」を踏まえて体系的に編成されている。質の高い学術・

技能の獲得とともに、自ら学ぼうとする、豊かな人間性を備えた学生の育成を目指し、両学科で様々な工夫がされている。

入学希望者に向けての「入学者受け入れの方針」の中でも「高等学校において望まれる学習」を示すなどして大学での学習に向かう意欲を喚起している。また、入学までの間に入学前教育を行うなどして、大学での学びにスムーズに移行できるような機会が設けられている。入学後は、両学科共に学生が目指す職業人像が明確になり、それに向かって意欲的に学んでいけるように 2 年間の教育課程が組まれている。特に、こども学科における教育・保育実習記録集『ひろはら』は、実習の事前事後指導に有効に活用されている。

平成 23 年より PDCA サイクルによる学習成果の査定を始め、「教員の視点に立った教育」から「学生の視点に立った学習」への転換を図りつつある。学科会議後に FD 会議を開催するなどして常に学科全体で授業改善と学生支援について検討していく体制が整っている。定期的に行われている学生による授業評価、学生生活全般についての満足度調査、教員同士の相互授業参観や授業事例研究会等を活用して、教育力の向上に努めている。クラブ活動、自主学習など学生の自主的な活動を支援する教職員の体制や、施設設備なども充実しており、校是にのっとった豊かな学生生活を送れる配慮がなされている。

キャリア支援については、資格取得講座、就職試験対策講座の開講や、高度資格取得者に奨励金を出して賞揚するなど向学心のある学生の支援が充実している。一方で、基礎学力不足で学ぶ意欲が減退した学生のための相談活動なども行われている。また、卒業生や就職先からの情報を集めるなどして、その指摘を生かすようにも努めている。今後はさらに、学生の学力の格差や進路希望の多様化に応じた支援をしていくための対策が求められる。

### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

人的資源としての教員組織は、学習成果を獲得させるための「教育課程編成・実施の方針」に沿って教育研究上の知識・能力・実績によって選考された専任教員により編成され、その数は、短期大学設置基準を上回っている。教員の研究についての規程も整備され、その助成に努められている。教員個々人の研究活動には温度差があるものの総じて活発である。また、科学研究費補助金等、外部資金も獲得している。授業事例研究会、相互授業参観という形での FD 活動も行われている。図書館職員の司書資格取得率も高い。

事務組織は、大学・短期大学を統合した組織となっており、一部を除き事務局が短期大学校舎と繋がっていない大学の建物に集中し、場所も離れていることから短期大学の学生の利便性と職員の短期大学に対する意識の希薄化が懸念される。日本私立短期大学協会の研修等を利用した職員個々人の研修は行われているが、組織的な SD 活動は展開されていないので、今後の対応が望まれる。また、全事務職員にパソコンが貸与され、電子メール、ファイルサーバの利用、事務合理化システム及び教務システム等の学生支援システムの利用が可能になっており、学生支援体制は整備されている。



物的資源としての校地・校舎面積はいずれも短期大学設置基準に規定される面積を上回っており、校舎の学習環境も「教育課程編成・実施の方針」に沿って整備・活用されている。火災・地震・防犯対策として定期的に点検、訓練も行われている。飲料・食料を備蓄し、学生に対するリスクマネジメントも実施されている。

技術的資源をはじめとするその他の教育資源のうち情報システムについては、教職員の使用のみならず、学生の授業内容や資格取得を考慮して導入されており、3～4年のサイクルで見直し更新が行われている。こうして導入されたハードウェア及びソフトウェアは授業で使用しないパソコン教室3室にも設置され、高速化された学内LANに接続し、学生が必要な学習を行うことができるように整備されており、セキュリティ対策もとられている。

財的資源については、大学・短期大学部門の高い収容定員充足率に支えられているものの、法人としての消費収支は一時的な特別費用により過去3年間は支出超過が続いた。帰属収支では過去3年間のうち2年間は収入超過となっている。日本私立学校振興・共済事業団の「定量的な経営判断の指標に基づく経営状態の区分」では正常の状態である。

#### 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、私立学校法、寄附行為、学内規程等に基づき、大学の運営を総理し、建学の精神を教職員及び学生に定期的に伝えている。学長を兼任することで、世の中の動きに即応し、かつ、厳しい社会状況の中、優れたリーダーシップで短期大学を牽引している。学外での公的役職も多いが、定期的な会議、ミーティング等を行い、学内とのコミュニケーションを十分に図っている。

学長は、理事長及び他の公職を兼任する中で、教授会、両学科会議や執行部会に出席している。大学運営は、教授会、学科会議が適正に行われ、また、教学上必要な事項を処理するために、三つの部会と九つの委員会が組織化されている。学長は、各部長、委員長と事前の打ち合わせをし、大学の方向性の確認を常に行っている。

監事は、寄附行為の規定に基づいて、法人の業務及び財産の状況について適宜監査業務を行っている。決算時には経理責任者から説明を受けているが、さらに、定期的に公認会計士と会合をもち、監査業務の精度をあげるとともに、理事会に毎回出席し、意見を述べている。監査報告書は、法令どおり理事会及び評議員会に提出している。

理事会、評議員会は、適正な人数で構成されている。私立学校法の規定に従い理事会の諮問機関として適切に運営されている。

全体のガバナンスについては、中・長期財務計画に基づいて、各年度の予算編成を行っている。各部署からの予算請求原案は、共通のサーバーに保管し、予算確定後は、学内に向け電子メールで迅速に伝えられている。予算執行は、会計課によって適正に管理されている。出納業務は、「経理規程」及び「経理規程細則」に基づいて実施されている。計算書類及び財産書類等、学園の経営状態を示す書類は、学校法人会計基準に準拠し、適切に表示されている。公認会計士からの指摘事項への対応も講じられている。資産及び資金の管理に関しては、「資金運用管理規程」、「固定資産及び物品管理

規程」等に基づき、適切に管理されている。情報公開に関しては、ウェブサイトにおいて教育情報及び事業報告書等を公開し、法人本部会計課で必要書類が閲覧できるようになっている。学園の中・長期財務計画は策定されており、人事、施設設備、教学構想は個々に執行部によって計画されているが、さらに中・長期経営計画全体像の策定が望まれる。

## 選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

## 地域貢献の取り組みについて

### 総評

当該短期大学は、様々な地域貢献の取り組みを行っている。

「オープンカレッジかまがや」、県内図書館員を対象とした研修会、キャリア教育に関する講座、「こども造形教室」、教育職を目指す人たちのための科目等履修制度、教員免許状更新講習が地域社会に向けて実施されている。

また、ビジネスライフ学科において千葉県商工会議所連合会をはじめとする地域の行政・商工団体との交流、地域企業とのインターンシップの実施、公共図書館の発展・振興に寄与するための教員派遣や、こども学科において教育委員会との交流が実施されており、教員の多くも地方自治体の審議会や委員会の委員として参加するなど、積極的な社会的活動を展開している。

さらに日本図書館協会の被災地支援活動への参加（ビジネスライフ学科）、「放課後子ども教室」（こども学科）のボランティア活動があり、広範囲な取り組みが見て取れる。

中でも特筆すべきは、鎌ヶ谷市教育委員会との共同開催による公開講座「オープンカレッジかまがや」である。市民の代表によって構成される企画委員会の提案や、要望を踏まえて当該短期大学長を委員長とする運営委員会が計画立案して実施するこの講座が、年間計8回も開かれ18年間も継続開催されている。この活動は市民の声にこたえながら実施されている。

さらに、こども学科における「こども造形教室」も年7回開催され21年間にわたり地域貢献の実績を残している。この事業は平成15年度の「特色ある大学教育支援プログラム」にも採択されている。現在は、別プログラムとして陶芸活動を取り入れ、地域の人たちも参加する教育活動として発展しつつある。

これらの活動から、地域貢献の取り組みについては、当該短期大学は地域の幅広いニーズにこたえ、その活性化を図る責務を果たしているといえる。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

○ 県内図書館員を対象とした研修会、小学校での「放課後子ども教室」は学科の特

色を生かした取り組みであり、「こども造形教室」は、地域の人たちも参加する活動として地域コミュニティの再構築につながる効果も期待されている。